

ラウンドテーブル・2024 批判的想像力の獲得に向けて

2024-04-06 開催

第1回 珠洲からの脱出

——「避難所」の人々と〈生・労働・運動ネット富山〉に助けられて

司会：それでは、第1回の「ラウンドテーブル・2024」を始めたいと思います。まず最初に、「ラウンドテーブル・2024」の持ち方について、「生・労働・運動ネット富山」の橋本さんからお願いします。

「ラウンドテーブル・2024」のモチーフ・進め方について

橋本：「ラウンドテーブル・2024 批判的想像力の獲得に向けて」の第1回の集いを始めるに際して、「ラウンドテーブル・2024」のモチーフや進め方について少しお話ししたいと思います。

このような自由で活発な論議の場を営むということが、この約10年余り、富山の私・たちの重要な営みの1つとなっていました。しかし、残念ながら、2020年の春にこの国で新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降、私・たちは、こうした場をもつことを中断せざるを得ませんでした。コロナ感染症の発生が全く無くなったというわけではありませんが、ようやく4年ぶりにこうした集いを再開できるようになったことを、うれしく思っています。



「第1回」会場風景

ちょうど私・たちが、「ラウンドテーブル・2024」の集いをもつことを企画している途中の今年1月1日、能登半島で大震災が起きました。能登大震災は、とりわけ「災害弱者」と呼ばれるような、それまでかろうじて地域の中で〈生〉を営んできた高齢者や障害者、貧困家庭の親子といった人たちに、震災による被害が凝縮した形で現れてしまうことを、改めて私たちに突き付けています。

能登大震災のニュースの映像では、暖房設備や人数分の毛布もなく、十分な食料の配布も受けることができないまま、すし詰め状態で避難所の体育館に避難している被災者の人たちの姿が映し出されていました。能登の漁船では、数百人もの漁業に従事する「外国人技能実習生」の外国籍の人たちが働いていたそうです。しかし、多くの場合、それらの人たちは、そうした劣悪な避難生活を強いられる避難所の体育館や公民館に入ることさえできなかったのではないかと、思います。

新聞やテレビのニュースで能登大震災をめぐる報道に接しながら、避難所の状態に現れているような、震災の被災者が十分な支援を受けることができていない状況に対して、私

・たちは疑問や怒りをもち続けていました。最終的には、一応撤回されることになったようですが、とりわけ、私・たちが納得のいかない思いを感じたのが、4月1日の北陸新幹線の延伸工事の完成に合わせて、来訪する観光客がもっと宿泊できるようにするために、金沢市内のホテルに避難していた被災者を退去させようとしていたことでした。

また、能登大震災からまだ日の浅い1月7日、陸上自衛隊第1空挺団が、千葉県習志野演習場で海外の約10か国の軍隊の指揮官を迎えて、「被災者の救助活動を最優先すべきだ」という批判の声を無視して、大規模な降下訓練を実施しました。これは、最近知ったことなのですが、この第1空挺部団というのは、チェーンソーやエンジンカッター、オイルジャッキといった倒壊家屋の下敷きになっている人たちを救助するための機材をもち、そのために特別な訓練を受けている部隊です。

能登大震災によって道路が寸断された能登半島では、第1空挺団のヘリコプターでの救助活動が震災直後から実施されるべきでした。第1空挺団の降下訓練の当日も、道路の状態が悪くて救助活動に支障をきたす中、第1空挺団のヘリコプターによる救助活動が大いに必要とされていたはずですが、結局、日本政府にそうした考えはありませんでした。

それらのことからもうかがえるように、今回の大震災の中で、〈生〉の困難を抱える人々に対して、無関心で冷酷なこの列島社会の在り方が再び大きく露呈していると、私・たちは感じています。現在の社会秩序や経済システムの中で抱える苦しみが大きい人たちほど孤立し、その存在が見えないものとされてしまうという人々の間の分断を打破し、このようではない対抗的な社会の在り方を描き出すことに向けて、自由かつ大胆で活発な論議の場をもちたい。そうした思いから、私・たちは今日の集いを皮切りに、「批判的想像力の獲得」を目指して、「ラウンドテーブル・2024」の集いを企画しています。

お手元の「ラウンドテーブル・2024」の案内チラシにもありますように、今日と次回の集いでは、能登大震災で被災した私・たちの仲間の東初美さんに被災体験を語ってもらい、そのことを受けて私・たちは何を考えるか論じ合うことを予定しています。

そのように、能登大震災で露呈したこの列島社会の在り方を変えるための手掛かりをいかに探るか、ということ「ラウンドテーブル・2024」の大きなテーマの1つにしていきたいと思っています。その他にも、たとえば、学校でのいじめの問題や外国にルーツをもつ子どもや若者たちへの支援をテーマとしたいと考えています。

これまで私・たちが営んできた自由で活発な論議の場のスタートに際して、毎回、1年間のプログラムを立ててきましたが、「ラウンドテーブル・2024」は、もう少し緩やかな形で、話の順番にはあまりこだわらずに、その時々が必要に応じて集いをもつようにしていきたいと思っています。

この場に参加している皆さんには、この後も、ぜひおつきあいいただければ、と思います。

本日の話の概略と進め方

司会：ありがとうございました。この後は今日の進め方についてお話ししたいと思います。どうぞよろしく願います。

先ほどの話にもありましたが、今日は私の隣に座っている私・たち「生・労働・運動ネット富山」のメンバーの東初美さんに話してもらいます。東さんは年末年始に実家のある珠洲市に帰省していて、今年1月1日の能登大震災に遭遇しました。東さんの実家は地震でほぼ全壊したのですが、そこから必死の思いで脱出して、高齢のお父さんと一緒に避難所になっている近所の学校に行き、そこで何日か過ごしました。

富山にいる他のメンバーたちは、東さんのことをとても心配して、被災状況についての情報が乏しい中で何とか東さんと彼女のお父さんを迎えにいこうと考えました。富山のメンバーの1人が東さんのつれあいの成川さんと一緒に、被災地の珠洲までなんとか車で行き、東さんとお父さんを連れて無事に富山に戻ってきました。そのように、私・たちが今までに経験したことがないようなことがあったのですが、そのことを改めてきちんと聞きたいと考えて、今日の集いをもちました。

それでは、今日の集いの具体的な進め方ですが、まず、東さんに能登で被災した体験を話してもらいます。しかし話が一方的にならないように、富山から珠洲まで東さんを迎えに行った人たちにも途中で話に入ってもらって、交互に話をしてもらえればと思います。

話を聞いていて何かちょっと分からないことがあれば、途中で質問をしてもらったりしてもいいと思います。今日は、あらかじめ決まった話し手だけが一方的に話をするのではないような形で進めていけたらと思います。

今日の東さんの話は、結構ボリュームがあるようですが、できれば、今日の集いで最後まで話を聞くことができるようにしていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

それでは、まず最初に東さんに、この年末に珠洲に帰省したときの様子から話してもらおうと思います。よろしく願います。

「今後のためになるなら」

東：とても緊張するタイプなので、言葉が詰まったりもしますが、よろしく願います。

この能登半島の地震で多くの方が命を落として、珠洲市では今でも断水のところがたくさんある状態です。そういった状況はよく報道されているので分かると思うんですけども、そこから私は脱出してきたんですが、この話をするには、心に引っかかりがずっとあります。

すいません、涙腺がゆるいので……。もっと早い時期にこういう集いをもとうという仲間からの呼びかけもありましたが、最近になってやっと「そろそろいいかな」っていう気になりました。それが今の私の正直な気持ちです。協力してくれる人がいたからできた

以後のパンフレット内容を知りたい方は、
問い合わせてください

この ZINE には、「ラウンドテーブル・2024」の第 1 回と第 2 回の集いで配布した資料から写真や地図を選んで掲載しました。なお、「生・労働・運動ネット富山」のホームページ、第 1 回と第 2 回の資料を収録したページは下記の URL で閲覧できます。併せてご覧いただければ、幸いです。

生・労働・運動ネット富山のホームページ

<https://net-jammers.net/>

ラウンドテーブル・2024 の当日資料のページ

<https://net-jammers.net/doc/semi-2024round.html>

2024・初冬

珠洲からの脱出と「その後」
——能登大震災の被災体験を語る

高齢者生存組合・富山

〒 930-0009 富山市神通町 3 - 5 - 3

URL : <http://net-jammers.net/>

E-mail : jammers.net.tym@gmail.com

頒価 1500 円 送料込み